



真言宗 豊山派 佐渡支所だより

題字 山本憲慈

第10号

平成二十六年十一月一日発行

真言宗豊山派 発行責任者 山本 憲慈
佐渡宗務支所 編集委員長 大場 憲栄

発行所
新潟県佐渡市赤玉六四八
文殊院中
真言宗豊山派佐渡宗務支所

「抛り所」をめざして

真言宗豊山派 佐渡宗務支所 支所長 山本 憲慈

支所長という重責を十分に果たせないまま一年が過ぎてしまいました。日ごろから支所事業推進、並びに菩提寺の護持等に対して檀信徒の方々の深いご理解とご協力をいただいておりますことに厚く感謝を申し上げます。

毎年、菩提寺から宗務所(本所:東京)へ檀信徒義納金を納付いただいております。今年も納付額を決定するための根拠となる「寺院所得調査」実施の年でもあります。住職はじめ菩提寺役員の方々からご尽力をいただいておりますことに重ねて感謝を申し上げます。

さて、宗教離れ、寺院離れ、道徳を忘れて目をそらしたほどの悲惨な事件が頻発する世相です。そんな中、佐渡宗務支所下寺院においては、お寺にしか体験できない体験コーナーを設け、行政や檀信徒と連携し伝統的文化遺産を護つて継承に努めています。また中断した伝統行事を復活させ地域の活性化を支え、佐渡八十八ヶ所霊場の札所として環境整備に努め巡拝者をお迎えする等々の活動を意欲的に取り組んでいる様子がたびたびメディアでも取り上げられました。「地域の抛り所」の復活に努力していただいていることを誇りに思っています。

佐渡宗務支所でも支所の活動状況等を発信してより身近に感じていただけるよう九月一日から「ホームページ開設」、またこれに先立って七月一日より各寺院住職の輪番による「テレホン法話」に取り組んでおります。是非、アクセスしてご利用いただき、ご意見やご感想をお聞かせください。



支所長 山本憲慈
婦人のご協力をいただいて檀信徒の方々と佐渡宗務支所との繋がりをより強く強固なものとなるよう努めて参りますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

テレホン法話絶賛送信中

「私に3分間、時間をください！」とばかりに佐渡宗務支所豊山派教師が我、先を争い、毎月ごとにベテラン・中堅・若手を問わず話し手が交代し、法話(約3分間)を二十四時間いつでも聞けるのが、この「テレホン法話」です。

「お釈迦様」「おんろさん」「般若心経」等、様々な題材の法話を聞くことができ、あなたの心の隙間を埋めてくれることに違いありません。

ぜひとも、お聞きください。なお、電話番号のかけ間違いにつきましてはくれぐれもご注意を。



Tel:0259-63-3453

ホームページ開設のお知らせ

平成二十六年年度の佐渡宗務支所事業計画にもとづき、本年九月一日より、佐渡宗務支所のホームページを開設しました。これにより、檀信徒の皆様は佐渡宗務支所について、ご理解を深めていただき、佐渡宗務支所、所属寺院、教師、檀信徒の皆様や真言宗豊山派との連携強化をめざします。

内容としては、支所所属寺院の紹介、支所事業計画、テレホン法話の内容、総本山長谷寺や支所所属でホームページを有する寺院等とのリンク、およびお問い合わせコーナーなどが含まれています。

檀信徒の皆様におかれましては、新たに開設された支所ホームページをご活用いただき、内容の充実にご意見を寄せてくださるようお願い申し上げます。

真言宗豊山派佐渡宗務支所
ホームページ開設
<http://buzan-sado.jp>
檀信徒の皆様へのアクセスをお待ちしています

《テレホン法話実施中》
☎ 0259-63-3453
上記にお電話していただき
佐渡宗務支所僧侶による月ごとの
3分法話をお聞かせください

HPアドレス <http://buzan-sado.jp>

東日本大震災被災地慰霊訪問の報告

真言宗豊山派 佐渡宗務支所教区長 大場 憲栄

平成二十五年度の佐渡宗務支所事業計画にもとづき、平成二十五年九月二十八日から三十日の日程により、東日本大震災被災地慰霊訪問を実施いたしましたので、ご報告申し上げます。



相馬海岸流水灌頂法要

参加者は、教師が山本支所長以下七名、檀信徒一名の総勢八名で、バスの運転手さんにも法要の準備等協力いただいた。最初に、平成二十五年度の檀信徒総代会でご講演くださった福島県浪江町の長安寺住職横山周豊師がお寺ごと避難されている福島市内の仮事務所に伺い、ご本尊にお参りした。つぎに、檀家等寺関係者約百六十名が津波の犠牲となった、福島県相馬市の豊山派摂取院を訪問して本堂等にお参りした。その後、寺からほど近い海岸に移動して、三百人以上の相馬市民が津波で流された海に向かい、水難者を供養する流水灌頂(ながれかんじょう)の法要を厳修した。その際、津波で家を流され近親者を亡くした地元の方々に御焼香をしていただいた。

翌二十九日は、初めに宮城県石巻市の大川小学校にお参りしたが、津波をかぶり灰色にくすんだ校舎前の祭壇に向かい多くの人が手を合わせていた。

学校横手の北上川を駆け上がる巨大な津波の犠牲となった、児童・教職員九十四名の御霊を偲び、涙を禁じ得なかった。

つづいて、宮城県南三陸町の防災対策庁舎にお参りしたが、周りにあったはずの街はすべて津波で流され、跡地に赤茶けた鉄骨だけの建物が痛々しく立っていた。祭壇前から庁舎を見上げる多くの人達の脳裏に、「今すぐ避難してください」と繰り返し呼びかけ犠牲となった、町職員の女性の声が響いていたと思われる。



大川小学校祭壇前供養

最後に、岩手県陸前高田市の奇跡の一本松にお参りしたが、高田松原と呼ばれた七万本の松林で唯一生き残った松のモニメントは、震災からの復興のシンボルとして、往時のたくましい立ち姿をしのばせるものであった。

今回の慰霊訪問を通じて、東北の人達が深い悲しみを乗り越え、復興に立ち上がっている姿を垣間見ることができた。最後三十日に、これからも東北のために祈りを捧げたいと願いつつ、佐渡への帰路に着いた。



南三陸町防災対策庁舎前供養



奇跡の一本松前復興祈願供養

仏教婦人会佐渡支部長就任にあたり

支所下十二番 観正寺寺庭婦人

仏教婦人会会長 三國 裕子



今迄何も協力してこなかったのに自分が支部長になった途端、皆様にご協力をお願いし大変お世話になり、とても都合の良い自分を恥じております。

活動内容は年度の初めに総会研修会を開催し、年に何度か御詠歌の練習、そして佐渡支所からのお誘いでもとても勉強になる講演会等に参加させて頂き、後は年度末に事業及び決算報告という流れです。

御詠歌も以前お通夜の際にお唱えさせて頂いた所、大変喜ばれたというお話も聞きました。今も何とかそれが実現出来ればと頑張っているのですが、参加会員が少なくどうしようもない現状です。どうか一人でも多くの方の参加をお願いしつつ、今後の仏婦を宜しくお願い致します。

平成二十六年年度檀信徒総代会開催

本年七月五日、畑野長谷寺を会場に平成二十六年年度檀信徒総代会が開催され、参加者は総勢六十六名でした。はじめに千葉県第一号 圓東寺住職 増田俊康師を講師に、「お寺は心のエステサロン」と題する講演が行われました。



檀信徒総代会実施風景

増田講師は、マジックや南京玉すだれ等の妙技を駆使しながら、副題の「お寺と檀信徒の新たな関係づくり」などに関するお話を、終始楽しい雰囲気の中で約一時間にわたり熱弁を振るわれました。

続いて、檀信徒総代会に移り、支所の概況報告、平成二十五年度の事業報告、平成二十六年年度の事業計画や仏青活動等の議題が進行し、予定の時間に無事終了しました。記念品としてお配りしたお大師様の挿絵がついたバックを掲げ、総代さん方は家路に着されました。

「復幸」コンサート開催お知らせ

「共に祈りを...この日、復幸(ふっこう)の光が東北を遍(あまね)く照らす。」と題し、平成二十七年三月十一日、東京国際フォーラムに於いて、東日本大震災復興を祈念するイベントが開催されます。

真言宗豊山派青年僧、豊山派太鼓グループ「千響」そして、ゲストアーティスト二名による、法要(声明・太鼓)とコンサートが上演されます。詳細は『光明・秋号』に掲載されていますのでそちらを参考にお願いたします。



チケット購入問合せ先
03-6427-3239
楽インターナショナル(11時~17時)

「みほとけへの祈りは必ず力になる」ことを信じ豊山派青年僧が法要を厳修いたしますので、遠方ではありませんが皆様ご観覧頂きたく、ご案内申し上げます。なお、必要経費を差し引いた収益金は東北三県への義援金として贈られます。

第二十八回青少年研修会開催

本年度の青少年研修会は八月二日、三日に相川鹿伏、観音寺道場に於いて十九名の研修生が参加し開催。酷暑の中、研修生たちは懸命に各プログラムをこなして、無事終了。



平成26年8月2・3日
於：佐渡市相川鹿伏 観音寺道場

今回、研修生を代表し感想文を紹介するのは畑野小学校六年生、金子美音さん。楽しい中にも良い体験をされたみたいですね。それでは、どうぞ←←←

私が研修会で体験したことは、たくさんあります。一つはお経です。保育園のころからお経は分かっていたけど、この二日間で新しいお経もたくさん覚えられました。姿勢にも気をつけました。

もう一つには、座禅です。座禅は初めてやったので、きんちようしました。座り方も覚えて、たたかされるかすごくきんちようして、あつという間に終わったので早いなと思いました。でも、五分ぐらいたと聞いて、そんなに長くしたのにあつという間に終わったのはなぜだろうと思いました。それは、きんちようしていたからというのが分かりました。

私が一番印象に残ったことがあります。それは、仏様が毎日、顔が変わるという事です。人が良いことをたくさんしたら、にこにこ、うれしそうな顔になり、みんなが悪いことをすると、困っている顔になることです。だから、私は良いことをたくさんしたいし、困っている人がいたら助けたいし、命を大切にしたいです。小さな虫でも、くもでも命があるので自然に帰してあげたいなと思いました。そうすれば仏様も私もうれしい気持ちになれると思います。仏様はどんな時も、みんなの事を見守っているのです。精一杯がんばりたいです。

二日間いろんな事を教えてもらったり、いろんな所につれていってもらったので、指導してくださった先生にも感謝したいです。研修会で学んだことを家に帰ってもいかしたいです。



寺院探訪

佐渡宗務支所下二番

神護山 慶宮寺 しんござん けいこうじ

佐渡市宮川

住職

金子 照典



慶宮寺 本堂

南線宮川のバス停から山側へ約二〇〇㊦。元茅葺であった屋根を銅板葺で柔らかさを表現し、茅葺だった時の景観を残している。

開山、開基は不詳。一説に大同二年(八〇七)快空法師の開山という。順徳上皇の第四皇女(佐渡出生の第一皇女)慶子宮の誕生、住居、薨去ともこの寺であり、慶宮寺と称するようになった。

境内には慶子皇女が産湯を使ったといわれる御井戸がある。特に慶子皇女御愛玩のお手植といわれる鬱金桜もあり、現在は三代目の葉が出て

いる。

参堂出口の石段をあがると、真言宗の高僧八人を祀った八祖堂がある。二層建てで堂内には八角厨子があり、上層に秘仏の金輪仏頂が安置され、下層に大日三尊と八祖大師が祀られている。回転輪藏式の八角厨子は鞘堂に囲まれており、わずかな力でぐるりと回転する造りで参拝者が動かなくても八祖すべてを拝むことができる。八祖とは空海、すなわち祖師弘法大師が師と仰いだ龍猛、龍智、金剛智、善無畏、一行、不空、恵果、そして空海を加えた高祖をいう。昭和四十九年、新潟県有形文化財に指定された。

寺宝は快弁和尚が根来落城のとき請来したという弘法大師筆「般若十六善神」など。久知直泰の般若六百巻は裏書きにある世相が面白く、当時の様子がかがいがい知ることができる貴重な資料である。本堂には南佐渡七福神の一人福祿寿が奉安されている。

八祖堂(回転輪藏式八角厨子)



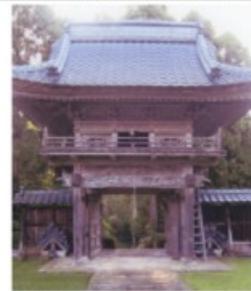
佐渡宗務支所下八番

明王山 不動院 みょうおうざん ぶどういん

佐渡市城腰

住職

中浜 尚文



山門 不動院

康暦二年(一三八〇)、馬坂築城主、本間加賀守直泰公の祈願寺として建立。郷坂山の滝で修行中の慶脱法師を向え開山。山内に不動坊、条泉坊等、塔頭を持つ大寺であったが、天文六年(一五三七)馬坂落城のおり、兵火で焼失、不動坊のみ復興。以後、「明王山、不動院」と称す。(本城寺、不動院)

山門は明治三十年、潟上の名工、関口文蔵により建立。楼上の額「阿遮羅窟」の文字は、時の駐韓行使、三浦梧楼の書。明治十七年、韓国で守旧派に対して開化派のクーデター(甲申事変)を起した金玉均の供養のため山門。「阿遮羅窟」に秘して金玉均は永代供養されている。

土蔵には戦国時代、久知郷の地頭であった久知本間氏の命を受け、天文初期頃から始まり四百八十数年も続けられている久知護摩法要で使われる六百巻の般若経典(『西遊記』の三蔵法師のモデルとされる玄奘和上が持ち帰った貴重な経典)が収められている。

久知護摩法要は郷内の真言寺院十二ヶ寺による輪番で毎年秋に行われ、郷内安穏・五穀豊穰・領民の幸福安全・息災繁栄を発願し祈祷の中で最もご利益のある護摩を修法する。

大般若会(大般若波羅蜜多經六百巻転読)とは、僧侶たちがその一卷、一卷を揚げ持ち、大声で経巻名を読み上げる。この時間運厄除・家内安全・五穀豊穰など様々な願いを御祈願する。また、この法要の功德は大変大きく、経典の転読によつて起る風「般若の梵風」にあたれば一切の災いを払い除くと言われている。

本年度は大般若経典を収める土蔵屋根の葺き替えを、檀家総代・檀信徒・信仰厚い方々のご協力でき、大変深く感謝するとともに、皆様に仏様のご加護がありますことをお祈りします。



『阿遮羅窟』山門額